

# 日本精神保健社会学会

THE JAPAN ASSOCIATION OF  
MENTAL HEALTH SOCIOLOGY

<日本学術会議協力学術研究団体 No.1001>

TEL&FAX 028-627-7188

ニュースレター第 59 号 発行人：宗像恒次

編集人：山本美奈子、窪田辰政

平成 28 年 12 月 15 日

事務局：栃木県宇都宮市豊郷台 1-1

帝京大学宇都宮キャンパス

滝澤武研究室内

## 第 22 回日本精神保健社会学会学術大会を終えて

第 22 回学術大会実行委員長 殿山 希（筑波技術大学保健科学部保健学）



東京が 54 年ぶりの 11 月の初雪に身体が凍えた日の前日（2016 年 11 月 23 日）に第 22 回日本精神保健社会学会が例年のごとく温かい雰囲気で行われた。大自然の破壊から私達は異常気象に苦しむが、現代社会のメンタルヘルスを考える時、地球上に生きる人々の関係性の変化（人間関係・家族関係の複雑化・希薄化・消失）が愛着の問題を引き起こしているという現実をも無視してはられないことに気づかされる。そんな社会の中で人はどのように再び愛着を紡ぐことができるのだろうか。それが今年の大会のテーマとなった。



大会の午前は、会員によるポスター発表が行われた。現代の精神保健社会学的視点からの研究として、和田ミトリ他『<ひきこもり>からの“回復期”にある当事者にみる外的要因の研究』、鈴木裕子他『多死時

代のメンタルヘルスの課題と対策—まちの看取りの力充実の必要—』、山口豊他『片親疎外症候群と心理社会的背景』、杉本洋『「個」と「個」のつながりを越えた共同体感覚の創生』、堀内翔平他『「メンヘラ」の言説分析—名付けによる生きづらさの変化』と興味深いテーマ・



新しい切り口の研究が5演題並び、そこに本学会調査委員会報告である上田敏子他『職場における情緒的嫌がらせ体験認知に影響する要因』がインパクトを添えた。また、看護教育・キャリア教育・院内学級担当教員などさまざまな教育の立場から、鈴木裕子他『職業的アイデンティティ教育とキャリア開発の文献から看護職のメンタルウェルビーイング充

実のための自己概念を検討する』、木部美知子他『看護実践能力育成のための学習活動と指導者の教育力ー臨地実習における看護学生のメンタルヘルスと指導者の関わりを通してー』、山本美奈子他『インターシップ参加者の学びと不参加者の理由ー地方大学に通う理系学生の傾向ー』、堀みさき他『院内学級担当教員における入院児の心理的状态の評価から支援までのプロセス』の発表があり、社会への意義深い問題提起となった。



午後は、宗像恒次学会長の司会進行のもと、「愛着を再び紡ぐ社会」をテーマにシンポジウムが行われた。シンポジストとして、清水知行氏と柚葉美輝氏は『別れた夫婦の子育てパートナーシップ』について互いに真摯なコミュニケーションを積むことで博愛を産み出すのではないかと結び、能登和子氏（特定非営利活動法人東京養育家庭の会副

理事長、東京都調布市民生児童委員）は、『里子とどのように愛着を紡いでいくか』について、社会・家族・個人の間で揺らぐ魂の成長への思いを語り、宮本眞奈美氏（日本ヒーリングサポート協会アニマル・コミュニケーター）は『コンパニオン・アニマルの問題行動から知る愛着の歪み～動物の声を聞くアニマル・コミュニケーターの実践より～』と題して動物に投影された飼い主の愛着の問題に切り込んだ。時代の先を行くシンポジストの語りには、社会の問題を冷静に判断する思考と困難に立ち向かう新たな視点の提示があり、さすが本学会、と満足された聴衆も多かったと思う。20分間延長しても会場とのディスカッションが止まらなかった。

若い研究者の豊かな発想に基づく発表やディスカッションでの積極的な発言も多く、学会の学術面での進展と新たな活力を感じる大会となった。皆様のご協力に感謝する。

## 発表を終えて 参加者の声

堀みさき（筑波大学大学院）



午前の第1部では一般演題（ポスター発表）、午後の第2部ではシンポジウムが開催されました。午前の一般演題では、普段触れることのない領域に関する研究も多く、新たな知見を得ることが出来ました。私自身も発表させていただき、プレゼンテーションの未熟さを感じると共に、質疑応答では、貴重なご質問をいただき、今後、自らの研究を深めてい

くための契機となりました。また、午後のシンポジウムにおいては、「愛着を再び紡ぐ社会」をテーマに、3組のシンポジストからの話題提供とディスカッションが行われました。「子どものペット化」といったことばを聞くこともあります。離婚後の子育てに関する課題や里親・里子に関する課題については、子どもを一人の人間としてどのように育て、愛着を紡いでいくのが望ましいのかを総合的に考える難しさを感じました。また、ペットにおいては、ペットだけではなく、そのオーナーとの関係性をどう変えていくかが愛着形成の鍵となると感じた非常に有意義な時間でした。

## 平成28年度「学会奨励賞」受賞

山本美奈子（独立行政法人・高齢・障害・求職者支援機構）



学会奨励賞という素晴らしい賞を戴きましたこと、誠に光栄です。私は、働くなかで組織の問題を解決したいと思い、研究に携わってきました。大学院では、企業の管理者の育成部分に着眼し、組織心理学のアプローチから彼らの行動変容が組織変革につながることを検証してきました。

現在は、研究活動の枠を広げ、大学生や障害のある労働者のキャリア研究に取り組んでいます。研究では、現場の声をデータとして示し、根拠のある解決策を提案し社会に還元していきたいと考えています。今回の受賞をいっそうの励みとし、今後も、精神保健社会学の発展に貢献していきたい所存です。

## 平成 28 年度「宿泊研修会」報告



山梨県の石和温泉<sup>いさわ</sup>、ホテル「やまなみ」で 9 月 17 日～18 日に行われました。趣のある日本庭園を意識した館内は、ゆったりと、まったりと非日常を味わい素敵な時間を皆様と共有することができました。参加された方のご紹介しますと、「宗像会長と滝澤先生の研究活動を『芝居でいえば、かぶりつき状態』で、お聞き



しワークに参加しました。感激でした!」、「身体感覚が、今のこころの問題と関係することについて知ることができました。カウンセリングをするときに、ほとんど、身体感覚のことを注目することはありませんでした。しかし、身体感覚こそが、扁桃体の記憶と関連することについて、知ることができました」などでした。ほのかに香るワイン風呂や露天風呂では、日頃の疲れをとり気づかぬうちに溜まっている心の疲れも癒されました。夜の食事会の席では、早くも「来年の宿泊研修の話」が出され、小人数なりに盛り上がりました。

### 機関誌「メンタルヘルスの社会学 Vol. 23」の原稿募集

年報編集委員会では、会員の皆様からの原著論文を募集しております。また、総説、研究報告、実践報告、短報、研究ノート、資料等もお待ちしております。論文の書式は年報の執筆要項をご覧ください。なお、タイトル、抄録の英文についてはネイティブチェック(専門校閲)を必ず受けるようにしてください。

●原稿締切：2017年7月10日(月)厳守

●送付方法および送付先

\*郵送のみの受付となります。詳細は投稿規定をご確認ください。

〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台1-1 帝京大学宇都宮キャンパス

滝澤武研究室内 日本精神保健社会学会事務局

# 日本精神保健社会学会入会のご案内

## 1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきました。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見だし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。

様々な分野の方々が、入会下さるよう期待しています。

## 2. 指針

- ①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。
- ②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。
- ③国際的にも仲間づくりをすすめていく。
- ④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。
- ⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。
- ⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

## 3. 入会申し込み方法

送付先：〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台1-1 帝京大学宇都宮キャンパス 滝澤武研究室内

日本精神保健社会学会事務局 TEL. 028-627-7188 FAX. 028-627-7188

入会金：5,000円

会費：通常会員 5,000円、学生会員 3,000円、賛助会員一口 10,000円（一口以上）、機関会員 20,000円

送金先：郵便振替 00170-6-613036 加入者名 日本精神保健社会学会

※ FAX、または郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

## 日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏名		生年月日	西暦 年 月 日 歳 (男・女)
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員 を希望する	連絡先	所属先・自宅 を希望する
所属先名 及び住所	〒 TEL. FAX.		
自宅住所	〒 TEL. FAX.		
所属系 (○印で)	社会学・文化人類学・経済学・哲学・心理学・社会福祉学・教育学・看護学・医学・保健学・栄養学・ 体育学・地理学・行政学・政治学・その他( )		
関心領域			